

## 令和2年度 三保松原におけるマツ材線虫病の被害状況

1

### 令和2年度 マツ材線虫病の被害状況

被害年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
①マツ生育面積(ha)	33.97	33.97	33.97	33.97	33.97	33.97	33.97
枯損本数(本)	266	181	115	307	144	299	358
②マツ材線虫病	199	133	59	33	22	26	20
DNA検査 陽性木	—	—	—	(24)	(5)	(6)	(3)
被圧等	67	48	56	※274	122	※273	※338
指標(本/ha) ②/①	5.86	3.92	1.74	0.97	0.65	0.77	0.59

- ※H29、R1は、主として塩害、R2は、主として干害
- ・マツ材線虫病被害木は、  
DNA検査で陽性となったマツと病徴が確認されたマツの合計本数(20本)
  - ・マツ材線虫病被害率は、  
三保松原の松林面積 33.97haあたりのマツ材線虫病被害本数  
( 20本 ÷ 33.97 ha = 0.59 本 / ha )

#### マツ材線虫病の病徴

外見が正常のまま、ヤニの漏出が止まり、その後、急激に葉が褐変し枯死する症状  
被害年度について  
6月から翌年5月までの期間を被害発生サイクルとして集計している

2

## ○松林保全に取り組んでいる範囲



— 松林保全に取り組んでいる範囲

- ・ 世界遺産のバッファゾーンの区域
- ・ 三保松原マツ林管理システム構築範囲

— 薬剤散布（地上散布）の範囲

— 薬剤散布（ドローン）の範囲

— 伐倒駆除の範囲

※R3年度  
※R3年度

【凡例】

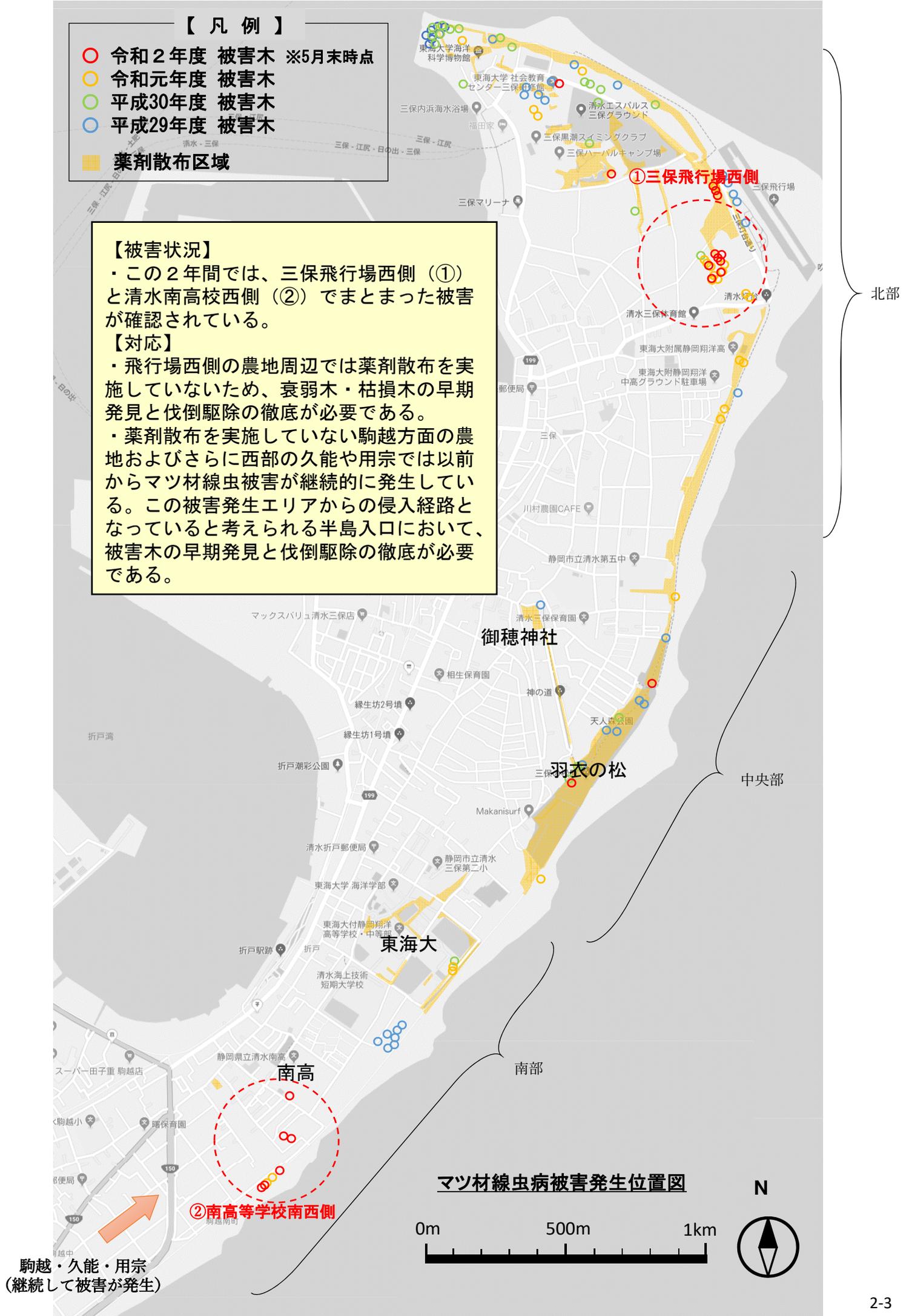
- 令和2年度 被害木 ※5月末時点
- 令和元年度 被害木
- 平成30年度 被害木
- 平成29年度 被害木
- 薬剤散布区域

【被害状況】

・この2年間では、三保飛行場西側（①）と清水南高校西側（②）でまとまった被害が確認されている。

【対応】

- ・飛行場西側の農地周辺では薬剤散布を実施していないため、衰弱木・枯損木の早期発見と伐倒駆除の徹底が必要である。
- ・薬剤散布を実施していない駒越方面の農地およびさらに西部の久能や用宗では以前からマツ材線虫被害が継続的に発生している。この被害発生エリアからの侵入経路となっていると考えられる半島入口において、被害木の早期発見と伐倒駆除の徹底が必要である。



マツ材線虫病被害発生位置図

駒越・久能・用宗  
(継続して被害が発生)

## 密度が高い場所で小径木が集中的に枯損

▼: 枯れマツ



三保飛行場西側



羽衣団地海側

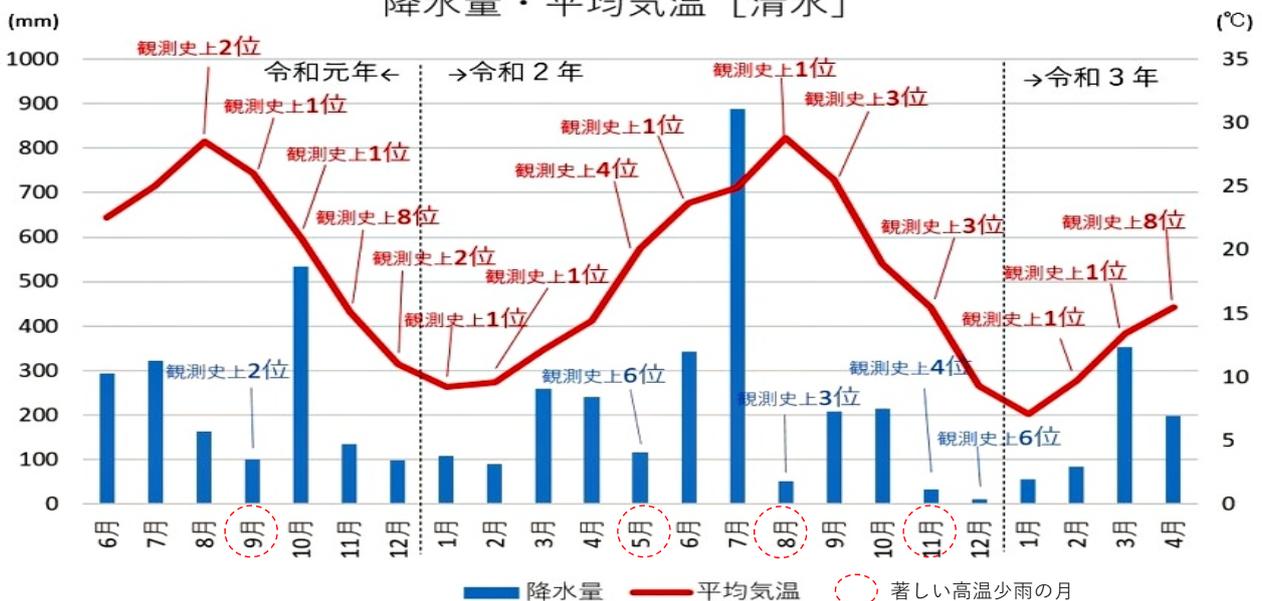
3

## 令和2年度 被圧等によるマツの枯損増加理由

令和元年以降の継続的な高温少雨に加え、昨年8月には降水量が著しく少ない状況下で月平均気温が観測史上最高値を更新したこと、また11月以降も著しく降水量が少ない状況下で、2～3月に月平均気温が観測史上最高値を2ヶ月連続で更新しており、マツが長期的・短期的に極度の水分不足ストレスにさらされたことで、樹勢が弱い小径木を中心に多くの枯損が発生したものと推定される。

＜令和元年～3年 清水の気象データ＞

降水量・平均気温 [清水]



4